

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：大学院生物資源学研究科

事業担当者の職・氏名：教授・中島千晴

内線電話番号：9638

電子メール：chiharu@bio.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

海外交流校における実験実習の実施

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

生物資源学部が中心となり実施していたマレーシアトレンガヌ大学におけるサマースクールの経験を踏まえ、専門教育への導入を目的に、資格取得、野外・圃場実習、キャリア実習、語学実習、ホームステイを組み合わせた短期海外実習の実施計画を策定する。専門教育初期(学部 1-2 年次)の学生が参加することから教員を派遣し慎重に計画を策定する。

(2) 事業の背景・これまでの実績

協定校であるマレーシアトレンガヌ大学のサマースクールにこれまでに 13 名の派遣実績がある。R5 年度に当初予定した派遣については、12 名程度の募集に対し 3 名のみの希望となり、派遣は実施されなかった。これはコロナ禍で実施されなかった必修の宿泊実習が長期にわたって複数回実施されることにより、応募可能な者が、参加出来る状況に無かったためと考えている。

(3) 事業実施結果

令和 6 年度改組により誕生する、新コース(生物資源総合科学コース[地域枠での入試有り])の 1 年生を対象に、レイトスペシャライゼーションのための幅広い実習体験、国際性の涵養、リーダーシップの育成を目的に可能な限り多くの人数の参加、単位化を事前に調整した。その上で、2 回に渡って教員が渡航し、窓口教員、学長・学部長などの大学執行部、実習担当教員との面談等を重ね、宿泊施設・実習実施施設の視察、費用の積算を行った。また同時に上級生向けのダイビングライセンス取得コースも解説する準備をしている。

(4) 事業の意義

令和 6 年度改組により生物資源学部は 1 学科 4 コース体制に移行する。その際には、レイトスペシャライゼーションを特徴とした新コース(生物資源総合科学コース[地域枠での入試有り])が設置される。このコースの 1 年生は地域創生に強い関心をもっていること、専門課程の選択前に農林水産・環境を幅広く修得し、俯瞰的視野を獲得することを目的としており、そのための幅広い実習体験と、国際性の涵養、リーダーシップの育成を目的に可能な限り多くの人数の参加をもとめ、単位化するこれらの実習を実施しようとするものである。これにより、紀伊・黒潮地域における将来のリーダーを育成しようとする試みである。

(5) 事業の発展性

特に優秀な学生の発掘と留学生の派遣元として、豊富な生物遺伝資源を活かした教員の共同研究先、多民族国家であることを背景とした多文化共生のスタイルを活かした大学運営を学ぶための職員の研修先、双方で力を入れている環境活動のパートナーとしての発展が望める。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

中期目標: I, 2 教育 (3), (8)

中期計画: I, 2 教育に関する目標を達成するための措置 (8)-1; X, 2. 人事に関する計画

(7) その他

なし

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

一般公開しない

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

一般公開しない。